

倫 理

後回しでいいという気持ちではいけない。最初の一步を踏み出そう。

I. 全体講評

今回の「第1回2月センター試験本番レベル模試倫理」の平均点は43.7点であった。例年は、第1問の青年期・現代社会分野の得点率が最も高く第4問の西洋近現代思想分野が最も低い、という傾向になる。しかし、今回はすべての大問が得点率40%台という結果になった。

この模試で倫理を受験した皆さんのほとんどは、その難しさに驚いたことであろう。倫理という科目は、皆さんが思っているほど楽な科目ではない。しかし、真剣に学習を進めていけば、必ず結果はついてくる。以下の大問別分析を十分に活用して、着実な一步を踏み出してほしい。

II. 大問別分析

第1問 青年期・現代社会分野

趣旨読解問題は必ず正答しよう。

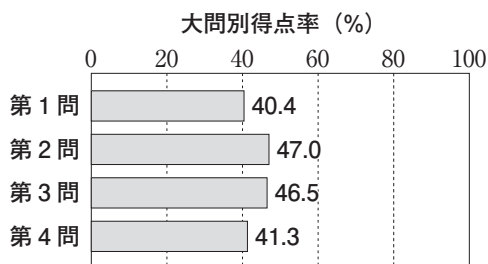
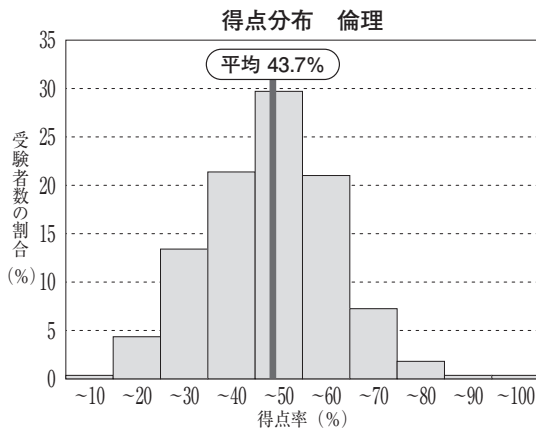
第1問の得点率は40.4%。知識が問われた問2 [2]、問3 [3]、問7 [7]、問8 [8]、問9 [9] はいずれも正答率は20%台の低さであった。知識を問う問題に答えられないということは現段階では仕方のない面もある。受験直前の段階ではこれらの問題に正答できるようになってほしい。

また、センター試験の倫理では問6 [6] のような資料文読解や、問10 [10] のような本文の趣旨読解問題が出題される。この種類の問題は読解力をつければ正答可能であるから、模試や過去問を積み重ね、必ず正答できるようになろう。

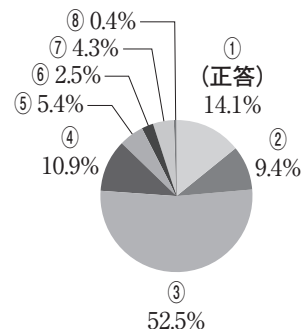
第2問 源流思想分野

倫理全体の土台となるのが源流思想分野である。

第2問の得点率は47.0%。正答率が50%以上の問題は5問だった。第2問は基礎的な事項から出題されている問題が多いとはいえ、現段階ではよくできた方であろう。この分野は日本思想分野や西洋近現代思想分野へとつながっていく大事な分野であるから、土台（源流思想分野の知識）を確実に固めることを最優先としよう。



問6 [16] の選択率



※注) 無回答・マークミスは割愛したため、
選択率の合計は100%にならないことがある。

問6 [16]はユダヤ教についての問題であったが、正答率が10%台で、この模試で最も正答率が低かった。すべて「正」が正答という、正答の選択肢を受験者が選びにくい問題ではあったが、本試験でもこのようなことがある。例えばユダヤ教の戒律を律法（トーラー）と呼ぶことを脳内にインプットするなど、「なんとなく」で答えを選ぶのではなく、十分な知識を持った上で本番の試験に臨んでほしい。

第3問 日本思想分野

明治時代の文学者の思想を明確に区別できるようにしよう。

第3問の得点率は46.5%。古来の日本人の神観念や信仰心についての問1 [20]と、趣旨読解問題の問9 [28]の正答率の高さが、ある程度得点率を引き上げた。ただし、一般知識や日本史の知識が通用しない他の問題はおおむね正答率が低めであった。しかし、これから学習を積み重ねていけば、一般知識や日本史の知識に頼らなければ答えられないという段階から、第3問の選択肢の文章すべての正誤を判定できる段階に至れる。過度な不安は禁物である。

なお、第3問で最も正答率の低かった問7 [26]は、近年出題頻度の高い明治時代の文学者からの出題である。明治時代の文学者の思想も出題範囲なのか、と思ったかもしれないが、彼らの思想は近代社会に生きる中での苦悩と煩悶をもとに構築されており、現代においても非常に考えさせられるものが含まれている。必ず押さえておこう。

第4問 西洋近現代思想分野

まずは教科書を読み、基礎知識を増やしていこう。

第4問の得点率は41.3%。資料文読解の問5 [33]と本文の趣旨読解問題の問9 [37]が正答率60%台であっただけで、知識が問われた他の問題の正答率は高く40%台であった。倫理はほとんどの受験者が未習であろうから、この時点ではこの結果になるのも致し方ないだろう。西洋近現代思想の用語は多彩で難解であるから、一つ一つ丁寧に理解していきたい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆基本事項を確実に理解する。

ほとんどの受験者が倫理は未習のまま臨んだのであろうから、今回の模試の点数に一喜一憂する意味はない。これをきっかけにスタートを切ることが大切である。まずは基本事項をしっかりと固めることを心がけたい。教科書の記述通り、青年期、源流思想から始めるのがいいだろう。そして、夏休みが終わるころには全分野を通観しておきたい。

◆趣旨読解問題に注意しよう。

センター試験の倫理では、各大問の最後に趣旨読解問題が出題されている。これはそれぞれの本文の趣旨を答えるものであるが、今回の模試では結果が芳しくなかった。この問題は、誤りの選択肢に明確な誤りのポイントがあり、落ち着いて本文を読み、各選択肢の文章と比較して正誤を判定していけば正答にたどり着けるようになってきている。読解力を磨き、落ち着いて取り組もう。

◆問題と解説冊子はまとめておく。

模試の問題と解説の冊子は各回まとめてとっておくこと。センター試験の倫理は他の科目と比較して選択肢の文章が長く、正誤を判定する実践的なトレーニングが不可欠である。東進模試は、センター試験本番と同じ形式・同じレベルの、またとない実戦教材であるから、直前になって取り出して、もう一度解き直せるよう整理しておいてほしい。

◆次回の模試に向けて。

倫理は主要科目とは違ってそれほど時間を割くことができない。それだけに、2か月ごとに実施される「センター試験本番レベル模試（全国统一高校生テスト）」をベースとして学習計画を組み立てることが重要である。毎回、「今回はこの分野を固めて確実に得点を取る」といったように、具体的に課題を設定して学習を進めていくのが効率的だろう。また、できなかった問題はしっかりと復習して二度と間違えないようにしてほしい。